






令和6年8月の優しさ通信

目次

- (1)  大阪市「誰でも通園」そろり 受け入れ、想定の数以下
- (2)  通園バス、警報・センサー導入拡大 点呼など運用に課題
- (3)  「HSP」接し方 理解徐々に
- (4)  増やした保育所 4割余る 政策硬直、需要とズレ
- (5)  学童の待機児童 1.8万人 5年ぶり最多

(1) 大阪市「誰でも通園」そろり

受け入れ、想定の数以下 保育士不足 無償化も控え課題に

*大阪で7月から「こども誰でも通園制度」の試行が始まりました。

*国が2026年度に全国で導入を目指す制度。

*保護者の就労状況に関わらず利用できます。

*保育士不足などの影響で、大阪市の受け入れ数は想定を半分に下回りました。

*「こども誰でも通園制度」は、保育所などに入所していない生後6か月から3歳未満の子どもが対象。

*試行事業は1時間当たり300円、利用時間は子ども1人当たり月10時間まで。

*2024年度は全国115自治体が参加。

*大阪は当初1408人の受け入れを想定していましたが、649人とどまりました。

*3月の募集に手を挙げたのは17施設。

*京都市も14施設で756人を受け入れる想定が13施設、245人に。

*神戸市は12施設、132人の想定を上回る23施設、1330人で実施。

*大阪は0～2歳児の保育料を完全無償化。

*今年9月から所得制限を設けずに第2子から無償化し、2026年度中に第1子も無償とする方針。

*大阪市内の保育士は、2023年4月時点で8700人ほど。

*大阪は勤続1～7年目、10年目などの保育士に常勤で20万円、短時間勤務の場合は10万円の一時金を支給。

*完全週休 2 日制を実現するため、保育所などが追加雇用する保育士の人件費に対する助成金は、1 か所あたり 1 年で最大約 1380 万円。

*大阪府の保育士の有効求人倍率は 1 月時点で 4.27 倍。全国平均は 3.54 倍。
(2024 年 7 月 3 日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

(2) 通園バス、警報・センサー導入拡大

点呼など運用に課題

*国は 2023 年 4 月、通園バスに安全装置を設置するよう義務付け。

*「降車時確認式」：エンジンを切った後に車内の確認を求める音声やブザーが鳴り、運転手や職員が車内後方のボタンを押して止める仕組み。

*「自動検知式」：センサーで人の動きを検知して警報音を鳴らします。

*両方の機能を持つ装置もあります。

*2024 年 3 月までに、全国約 24,000 施設が運行する約 54,000 台のバスほぼすべてに、安全装置が入る計画。

*国は乗降時の点呼なども義務化。

*バス送迎の安全管理マニュアルも作成。

*施設ごとのルールづくりや保護者との連絡体制の強化も促します。

(2024 年 7 月 5 日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)



(3) 「HSP」接し方 理解徐々に

生まれつき感受性強い人々 就労支援、企業も関心

*「HSP (ハイリー・センシティブ・パーソン)」：生まれつき敏感で強い感受性を持つ人。

*HSPは米国の心理学者が 1996 年に提唱した概念。

*音やにおいなどの刺激に敏感なほか、他人の表情を気にするあまり、ひどく疲れるといった傾向。

*相手の心情をくみ取れる共感力の高さも特徴。

*繊細さゆえの感受性を欠点としてとらえるのではなく、どう生かしていくかという視点が大切。

☆H S P の特性 (一例)

- 共感力が高い
 - * 怒られている人を見るのがつらい
 - * 相手の表情や声の調子で、感情を察する
- 五感が鋭く、刺激を受けやすい
 - * 人混みで疲れて 1 人になりたくなる
 - * 美術や音楽に深く感動する
- 何事も深く考える
 - * 競争や観察下で実力を発揮できない
 - * 短時間で多くをこなす必要があると、動揺する

(2024 年 7 月 16 日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

(4) 増やした保育所 4 割余る 政策硬直、需要とズレ

* 全 1741 市区町村の保育サービスの需給について、過去 5 年で定員を拡大したのは 834 自治体。298,000 人分広がりました。

* 利用者の伸びは 162,000 人。

* 3 割の自治体は利用者が減りました。

* 2023 年までの 10 年間で、受け皿は約 82 万人分増えました。

* 最大 26,000 人に膨らんだ待機児童数は 10 分の 1 に縮小。

* 全国の認可保育所の申込者は、2020 年をピークに減少に転じました。

* 2023 年の合計特殊出生率は 1.20。

(2024 年 7 月 17 日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

(5) 学童の待機児童 1.8 万人 5 年ぶり最多 「小 1 の壁」なお深刻

* 小学生を預かる放課後児童クラブ (学童保育) に希望しても入れなかった児童は、5 月時点で 18,462 人。

* 2023 年同月から 2,186 人増加し、5 年ぶりに過去最多を更新。

* 都市部を中心に学童保育に入れたい「小 1 の壁」はなお深刻な状況。

* 2024 年に利用登録している子どもの数は 1,515,205 人。

* 前年に比べて 57,821 人増加。過去最高を更新。

* 保育所の待機児童数は、2017 年には 2.6 万人にまで増加しましたが、2023 年には 2600 人程度まで減少。

(2024 年 7 月 20 日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)